

第12回 日本レーザーリプロダクション学会

特別講演Ⅲ

東京, 2017.03.26

不妊治療における栄養療法 -腸内細菌叢に焦点を当てて-

小松牧子¹ 小川久仁子¹ 井田守¹ 福田愛作¹ 森本義晴²

¹IVF 大阪クリニック ²HORAC グランフロント大阪クリニック

私たちの身体には多数の常在菌が存在している。常在菌の種類は1000種前後とみられているが、その種類や組成、密集の度合は場所によって異なり、固有の集団である細菌叢を形成している。このうち腸内に存在している腸内細菌叢は生体機能に深く関与しており、宿主と共生しながら様々な生理作用を示すことが知られている。腸内細菌叢の変異は疾病の発症に関連するにとどまらず、さらには生殖機能との関連の可能性が注目されている。従来の便培養による腸内細菌叢解析では全体の20~50%程度しか解析できないとされていたが、近年次世代シーケンサーの登場により腸内細菌叢を網羅的に解析することが可能となり、その全貌が解明されつつある。腸内細菌叢の解析は個人の健康指標ともなり、健常者と比較することにより、疾患の早期発見や治療効果の判定にも有用である可能性が予想される。また同時に生殖機能との関連が認められれば不妊治療においても有用な指標となる可能性を秘めている。

当院では不妊症患者に胚質改善を目的とした生殖栄養カウンセリングを行っている。すなわち患者の食生活、ライフスタイルを検証した上で、患者自身が実践できる食事療法を提案し、胚質改善につながるように努めている。ただ、現時点では不妊栄養指導は通常の栄養指導と大差ないのが実情である。そこで、胚の質と腸内細菌叢の関連を解析し、良好胚の得られる患者の腸内細菌叢をもたらし食事形態を参考とした栄養指導を目指している。真に有効な生殖栄養カウンセリングを将来の目標としている。